

◎ 昭和 52 年度 総 会

と き： 昭和 53 年 5 月 11 日 (木) 14:30~16:00

と ころ： 日本生命札幌ビル 9 階 D 会議室

出 席： 会長横道英雄・幹事長河野文弘・道路研究委員長板倉忠三・コンクリート研究委員長藤田嘉夫代理辻忠志
鋼道路橋研究委員長渡辺 昇代理青木 弘・土質基礎研究委員長北郷 繁代理佐々木晴美・町田利武
(北海道建設業信用保証 株式会社)・長縄高雄 (北海道開発局土木試験所長)・高橋 毅 (北海道開発局土木
試験所第 3 研究部長) 以上のほか本会主事小住勝雄

横道会長あいさつの後つぎの議事を行った。

議 事

1. 本部の事業および会計報告

2. 各研究委員会の事業ならびに会計報告

3. 規約の改正について

この件については、現規約に対し種々検討を要する必要があるので新組織の基で検討することとした。

4. 会長・副会長・幹事長の改選について

○横道会長より長期就任を理由に辞任の要望あり、又河野幹事長よりも副会長・幹事長の長期就任の理由により辞任の要望があつて了承され、後任として下記のとおり選任された。

| | | |
|-------|---------|---------------------|
| 会 長 | 町 田 利 武 | 北海道建設業信用保証 株式会社 |
| 副 会 長 | 尾 崎 晃 | 北海道大学工学部教授 |
| 同 | 長 縄 高 雄 | 北海道開発局土木試験所長 |
| 幹 事 長 | 高 橋 毅 | 北海道開発局土木試験所第 3 研究部長 |

◎ 新会長就任あいさつ



致しかつた今年の冬とはうらはらに、猛暑の続く昨今ですが、皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

今年の春突然に、ほんとうに突然に会長をお引受けいたす破目になりました。もとより非才、その器ではありませんが、幸に今年の干支は馬、先輩の驥尾について、懸命に頑張りたいと存じますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

(写真は新会長)

◎ 各研究委員会の最近の活動状況

1. 鋼道路橋研究委員会 (委員長 渡 辺 昇)

1. 文献小委員会 (小委員長 渡 辺 昇)

下記の文献目録を整理、和訳し、印刷・製本して配布した。

文献 No. 29「Journal of Applied Mechanics」(自 1967 年~1973 年)

2. 設計仕様小委員会 (小委員長 西本 藤彦)
北海道における塗装及び耐蝕性からみた普通鋼と耐候性鋼について検討会を行った。
3. 鋼橋写真集編さん小委員会 (小委員長 坂口 貞光)
「北海道鋼道路橋写真集, 第3集 (昭和47年~50年度)」を印刷し配布並びに寄贈した。
なお, 第1及び第2集の追加寄贈も合わせて行った。
4. 講習・講演小委員会 (小委員長 出村 一男)
下記の講習会・講演会を開催した。

記

- 1) 映画会 52. 1. 28 於建設会館 参加者 162 名
「鋼のあした」
「新道路交通システム DMB」
「六方沢橋」
「大鳴門橋基礎実験」
- 2) 講演会 (1) 52. 1. 28 於建設会館 参加者 162 名
「本四連絡橋の特異点」 川田工業株式会社 相良 正次
「ニールセン橋梁について」 三菱重工業株式会社 前原 忠雄
- 3) 講演会 (2) 52. 2. 15 於旭川市民文化会館 参加者 309 名
「鋼桁の横倒れ座屈について」 北海道大学 渡辺 昇
「大雪ダム工事記録の概要紹介」 北海道開発局 古明地 宏道
映 画「末広大橋」
// 「ダ・ヴィンチ夢のかげ橋」
// 「大雪ダム」
- 4) 講演会 (3) 52. 2. 21 於日本生命ビル 参加者 91 名
「閉じリブ鋼床版の塑性耐力について」 北海道大学 渡辺 昇
「的矢大橋について」 日本鋼管株式会社 岡本 忠夫
「寒冷地向低温用形鋼の製造と特性について」 日本鋼管株式会社 清水 義弘
「耐候性鋼材とその鋼橋における裸使用について」 日本鋼管株式会社 松島 巖
- 5) 講演会 (4) 52. 3. 18 於日本生命ビル 参加者 90 名
「低温用鋼の特性について」 新日本製鉄株式会社 亀井 光一
「無騒音, 無振動工法について」 新日本製鉄株式会社 海輪 博之
「ネガティブリクシオン対策杭について」 新日本製鉄株式会社 儀賀 俊成
映 画「わが大地のエネルギー」(地熱発電と多目的利用)
// 「海にきざく COR・TEN 橋」(メンテメンズ, フリーについて)
5. 振動小委員会 (小委員長 芳村 仁)
- 1) 札幌市, 南大通横断歩道橋の改良後の振動測定を行った。(51. 9. 25)
- 2) 建設省土木研究所の大橋昭光氏と米国地質調査所より同研究所に招へいされていた Rcbink McGuire 氏との懇談会を開く。(52. 6. 28)
6. 技術研究小委員会 (小委員長 井藤 昭夫)
高張力鋼 (SMA 58 t=38 mm) の溶接による拘束割れ, 及び低温脆性破壊の伝播に関する現地曝露試験を行い, 低温下の鋼材の特性について基礎的資料を得た。
2. コンクリート研究委員会
(委員長藤田嘉夫・副委員長角田和夫, 高田和夫, 幹事長辻 忠志)
本委員会は現在 63 人の要員により構成され, 年 2 回開催される本委員会および隔月ごとに開かれる幹事会が定期的に活動を行っている。また, 必要に応じて随時小委員会が設置されるほか, 会員の要望によって随時講演会や見学会などを行うことになっている。
本委員会の最近の主な活動状況を挙げれば, 次のとおりである。
- 1) 道内のコンクリート橋に関する調査

- 2) コンクリート舗装に関する調査
- 3) 寒中施工に関する調査
- 4) コンクリートの耐久性に関する調査
- 5) 土木学会「プレストレストコンクリート標準示方書」(案)の検討および土木学会への意見書の提出
- 6) 土木学会「高炉スラグ砕石コンクリート設計施工指針」(案)の検討および土木学会への意見書の提出
- 7) JIS A 5308「レデームイクストコンクリート」案の検討および道内意見の収集
- 8) JIS A 5002「構造用軽量コンクリート骨材」(案)の検討および道内意見の収集
- 9) 日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」(案)の検討
- 10) 土木学会「終局強度に基づくコンクリート構造設計指針」(案)の検討
以上の事業を行った。